

授業科目名	教育課程総論	担当教員名	矢野 洋子	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>(1) 教育課程の意義 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領の内容理解に努め、幼児の発達を考慮した教育課程編成の目的を理解している。</p> <p>2) 幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。</p> <p>3) 教育課程が地域の実態や社会において果たしている役割や機能を理解している。</p> <p>(2) 教育課程の編成の方法 教育課程編成の基本原理及び子どもや地域の実態を踏まえ教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>1) 教育課程編成の基本原理を理解している。</p> <p>2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することが出来る等対応力を身に付ける。</p> <p>3) 学期・年齢をまたいだ長期的な視野から、また、幼児、地域の実態、保護者や地域の願い等を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメント 教科・領域・各年齢をまたいでカリキュラムを把握し幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している</p> <p>2) カリキュラム評価（より良い学びにつなげるため）の基礎的な考え方を理解している。</p>									
【授業の概要】									
幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について保育の全体計画であることや質に関わる重大な課題であること等捉えさせ、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション・保育で重視していること。				【事後】 保育がつく言葉探しをする。(ICT活用) p2～p9復習する。				
第2回	幼児教育の基本 (保育内容の歴史の変遷と現代の保育について)				【事前】 副読本 保育とは何かを読んで理解する。副 p10～p18 【事後】 本日学んだことを復習し、教科書p13～p28大事な箇所を押える。				
第3回	幼稚園教育の基本 序章 第1節 改定の基本的な考え方 2 改訂の要点				【事前】 幼稚園教育要領解説 序章を読む。P2～p9 【事後】 振り返りをする。				
第4回	幼稚園教育の基本 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項 (1) 幼児期にふさわしい生活の展開 (2) 遊びを通しての総合的な指導 (3) 一人一人の発達の特性に応じた指導				【事前】 幼稚園教育要領解説 p10～p40 【事後】 授業の振り返りとともに、5領域を押え、覚える。(振り返り)				
第5回	幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項 4 計画的な環境の構成 5 教師の役割				【事前】 幼稚園教育要領解説 p33～p49 【事後】 授業の振り返り 領域の押さえ				
第6回	幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説 p96～p109 指導計画の考え方 2 指導計画作成上の基本的事項 3 指導計画作成上の留意事項				【事前】 教科書1節を読み、大事な箇所にアンダーラインを引く。 【事後】 授業の振り返り 副読本 p27～p36 「教育課程」・「全体的な計画」から「指導計画」へを読み授業理解を深める。				
第7回	教科書 第1章 幼児教育の基本と教育課程 p2～p10				【事前】 教科書を読み、幼稚園教育について理解する。 【事後】 授業の振り返り及び、副読本第3章をまとめる。				
第8回	教科書 第3章 1節 幼児のあそび 2節 あそびのなかでの学び 3節 幼稚園と小学校の連携				【事前】 あそびのと学び 第3章を読む。教科書p30～p42 【事後】 授業の振り返り 副読本 第3章を読む。				
第9回	あそびと学び (DVDを通しての考察・グループワーク) 副読本 第3章 幼稚園の理解 p37～p66				【事前】 保育における「あそび」について読む。 【事後】 DVD振り返り 「幼稚園教育要領解説」を読む。(第1章3節)				
第10回	発達の理解と教育課程の編成 (発達を理解することの重要性について)				【事前】 教科書第5章を読む。特に保育者の発達観、保育観を理解する。 【事後】 授業の振り返り より深い発達理解のためにをまとめる。				
第11回	特色ある幼稚園づくりと教育課程				【事前】 教科書第6章を読む。副読本第3章の2を読んで理解する。 【事後】 授業の振り返り とくに指導計画と教育課程の関係をまとめる。				
第12回	教育課程の評価・改善(実施されたその内容及びその成果と課題迄カリキュラムに含まれること)の理解				【事前】 教科書第7章を読む。PDCAサイクルについて理解を深める。 【事後】 授業の振り返り 副読本第3章のワークをする				
第13回	幼稚園における教育課程編成の実際を中心にグループワークにて行う				【事前】 教科書第8章を読む。副読本発表箇所をまとめる。 【事後】 副読本グループ発表の役割分担箇所を分かりやすくまとめる。				
第14回	幼稚園における教育課程編成の実際を中心にグループディスカッションにて行い、まとめ→発表				【事前】 プレゼンの方法を研究し、伝わりやすい内容にする。 【事後】 プレゼンの振り返りを行う。				
第15回	時代の変化と新たな保育内容及びまとめ				【事前】 教科書第10章、第11章を読む。興味のある内容をまとめる。 【事後】 15回の授業内容を振り返る。				

<p>【学生に対する評価】 定期試験（70％） 予習・復習 小テスト（10％） 授業への取り組み（20％）等による総合評価</p>
<p>【テキスト及び参考書】 「教育課程総論」（北大路書房） 平成21年3月 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館） 「幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開」（フレーベル館） 「教育課程・保育の計画と評価」 ―書いて学べる指導計画― 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）</p>
<p>【学生へのメッセージ】 教育課程を編成するにあたっては、幼稚園教育要領及び幼稚園教育要領解説に書かれている内容に日頃から触れていきましょう。また、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や5領域は特に、頭に入れていきましょう。</p>
<p>【備考】 必ず、予習・復習をしておくこと。毎時間の確認は小テストや振り返りプリントで行う。 面倒がらずに細めに学習すること。</p>
<p>【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:yano@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:</p>

授 業 科 目 名	子どもの保健	担 当 教 員 名	榎本 郁美	単 位 数	2	授 業 区 分	講義	開 講 時 期	1 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する 2. 子どもの発育・発達を理解し、適切な保健活動ができる 3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法を理解する 4. 子どもの病気や事故の予防法を理解し、適切に対処できる 5. 他職種や地域との連携の意義を理解する									
【授業の概要】									
・子どもが病気にならないように保健衛生を整え、看護する医療的なことだけでなく、多様な子どもたちをより健康に豊かに育てることを目指す。 ・さらには近年の社会情勢を踏まえ虐待や地域との連携など幅広い見地を養い、あらゆる場面で適切に対応できるための資質の向上を図る。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	子どもの保健オリエンテーション				【事前】				
	第1章	子どもの健康と保健			【事後】授業の振り返りを行う。				
第2回	保健活動の意義と母子家庭の現状								
	第2章	子どもの発育・発達と保健			【事前】テキストの該当ページを読む。				
第3回	子どもの身体発育と運動機能の発達				【事後】授業の振り返りを行う。				
	第2章	子どもの発育・発達と保健			【事前】テキストの該当ページを読む。				
第4回	生理機能の発達と生活習慣				【事後】授業の振り返りを行う。				
	第2章	まとめ			【事前】テキストの該当ページを読む。				
第5回	第3章	地域における保健活動と子どもの虐待防止			【事後】授業の振り返りを行う。				
	第4章	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握			【事前】テキストの該当ページを読む。				
第6回	第5章	子どもの病気			【事後】授業の振り返りを行う。				
	子どもの免疫の発達と感染症の特徴								
第7回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	主なウイルス感染症				【事後】授業の振り返りを行う。				
第8回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	感染症の予防および適切な対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第9回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	救急疾患の特徴と適切な対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第10回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	急性疾患による救急対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第11回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	新生児の病気、先天性の病気の特徴と対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第12回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	アレルギー疾患の特徴と適切な対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第13回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	集団生活におけるアレルギー児への対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第14回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	慢性疾患の特徴と適切な対応				【事後】授業の振り返りを行う。				
第15回	第5章	子どもの病気			【事前】テキストの該当ページを読む。				
	子どもの慢性疾患の種類と特徴				【事後】授業の振り返りを行う。				
第15回	第5章	まとめ							
	第6章	保護者との情報共有と家族の支援			【事前】テキストの該当ページを読む。				
第15回	第7章	子どもの健康診断と関係機関との連携			【事後】授業の振り返りを行う。				
	まとめ								

<p>【学生に対する評価】 定期試験（80％） 受講態度及び提出物（20％）による総合評価</p>
<p>【テキスト及び参考書】 「子どもの保健テキスト」（診断と治療社） 「母子健康手帳」（東京法規） 「演習 子どもの保健Ⅱ」（みらい） プリント（資料）配布 「はじめて ママ&パパの0～6才病気とホームケア」（主婦の友社）</p>
<p>【学生へのメッセージ】 授業中の態度や、ディスカッション、質問に対する回答などの対応は評価に反映します。 授業で配布したプリントは確実にファイリングしてください。</p>
<p>【備考】 実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。 平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士（産休代替職員）として勤務。 平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士（産休代替職員）として勤務。 平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士（嘱託職員）として勤務。 平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。 平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。 令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。</p>
<p>【担当教員の連絡先】 学校専用E-mail:kamiduru@tohaya.ac.jp</p>

授 業 科 目 名	乳児保育 I	担 当 教 員 名	榎 本 郁 美	単 位 数	2	授 業 区 分	講 義	開 講 時 期	1 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割などについて理解する。									
②乳児の成長発達に即した保育の基本を理解する。									
③健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。									
④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。									
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。									
【授業の概要】									
人の一生は、乳幼児期にどんな大人と関わったかで大きく左右されるといわれる。									
保育所は一日の大半を過ごす大切な場所であり、保育者と関わる時間は長くその役割は重要なものである。									
責任の重さも計り知れないものがある。そのことを深く認識するために保育所保育指針に学びながら、発達の主な特徴を知り乳児の生活を理解した上で、保育者の適切な援助を学習する。子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び、温かな人間性と諸科学の理論に裏付けられた保育実践を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 乳児保育とは				【事前】「保育者になる」ことを再考する				
					【事後】仲間の思いを知る				
第2回	乳児保育を取り巻く社会的環境				【事前】教科書を通読し考えをまとめる				
					【事後】振り返りを行う				
第3回	0歳児の発育・発達と保育				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第4回	1歳児の発育・発達と保育				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第5回	手作り玩具作成 牛乳パックでアンパンマンを作る				【事前】材料を収集				
					【事後】玩具を使って実践練習				
第6回	2歳児の発育・発達と保育				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第7回	手作り玩具を使って遊ぶ				【事前】実践練習				
					【事後】振り返りを行う				
第8回	移行期の子どもへの関り 乳児保育における連携・協働				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第9回	乳児保育における基本的生活の援助				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第10回	乳児保育における健康支援・衛生・安全				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第11回	乳児保育における生活と遊びの実際				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第12回	乳児保育における計画と評価				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第13回	乳児保育における遊び				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第14回	多様性を目指す乳児保育				【事前】教科書を通読				
					【事後】振り返りを行う				
第15回	まとめ				【事前】質問事項				
					【事後】振り返りを行う				
【学生に対する評価】									
定期試験(60%)、提出物(20%)、受講態度(20%) これらの総合評価									

【テキスト及び参考書】

「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」(株式会社 中山書店)
「離乳食マニュアル」(北九州市福祉事業団)
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)
「講義で学ぶ乳児保育」(わかば社)
資料配布

【学生へのメッセージ】

乳児保育とは何か?一般的に「乳児」とは、学問や法律の世界では、1歳までの子どもの事です。また、この時期の子どもは”赤ちゃん”とも呼ばれます。保育の現場では、3歳未満児を「乳児」と呼んでいます。
保育は環境を通して「養護と教育」を一体的に行うことを求められています。保育士は、遊びや生活の中で環境を整え必要な援助を行わなければならないのです。
あなたの身近に赤ちゃんはいますか?
これから一緒に学んでいきましょう。

【備 考】

実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。
平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士(産休代替職員)として勤務。
平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士(産休代替職員)として勤務。
平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士(嘱託職員)として勤務。
平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。
平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。
令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail : enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail :

授 業 科目名	保育実習Ⅰ(保育所)	担 当 教員名	城戸 麻美 (他)	単位数	2	授業 区分	実習	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 保育現場において、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・実習は、保育実習での意義や目的を理解するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。併せて、子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・この実習を通して学んだ課題を明確化し、次回の実習へ前向きに取り組めるようにする。 									
【授業計画】									
第1週	①保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり実習施設について理解する。								
	②保育所保育指針に基づく保育の展開 保育所の一日の流れを理解し、参加する。								
	③子ども理解 子どもの観察とその記録による理解(観察の視点を学び、観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する。)								
	④子どもの理解 子どもの発達過程の理解 子どもの援助や関わり								
	⑤保育の計画に基づく保育内容 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。								
	⑥子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境								
	⑦記録や保護者とのコミュニケーションを通して、保護者支援や家庭地域社会を理解する。								
第2週	⑧子どもの健康と安全について理解する。 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。								
	⑨専門職としての保育士の役割と職業倫理・保育士の業務内容を具体的に学ぶ。職員間の役割分担や連携・協働								
	⑩保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価								
	⑪他者評価と自己課題 自己との向き合い方(次の実習に向かうための)								
(実習期間) (実習園) 別途記載する。									
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況などの総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)									
「保育所保育指針解説書」(平成30年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「幼稚園教育要領解説書」(平成30年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「保育実習(保育所)の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)									
「保育方法・指導法」(ミネルヴァ書房)									
【学生へのメッセージ】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習期間中の、質問や疑問、様々な不安などは、一人で抱え込むことのないよう担当に相談してください。実習園においても、学校においても、「報告、連絡、相談」を常に心がけましょう。(担当者への連絡や着信への応答はメールで済ませない。) ・保育実習という大切な機会を活かし、多くの子どもと関心をもって、接するように心がけましょう。 ・実習では、子どもの興味や関心、発達の状態を知り、子どもへの理解を深めましょう。 ・保育士という専門職の理解や保護者支援について学ぶことが出来るよう意欲的に実習に臨みましょう。 									
【備 考】									
<p>実務経験：平成17年4月より令和7年3月まで社会福祉法人慈母の会浄喜寺保育園にて保育士として勤務。</p> <p>令和7年4月より令和8年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属荊田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。</p> <p>令和8年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。</p>									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：					学校専用E-mail：				

授 業 科 目 名	保育実習Ⅱ	担 当 教 員 名	榎本 郁美 (他)	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 一人一人の子どもの観察や関わりの視点を明確にし、発達や個性を捉え保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び、自己評価等について実践に取り組み、理解を深め指導技術を習得する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士として自己課題を明確化する。 									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育士として必要な姿勢や態度及び指導の方法・技術等を習得するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。 ・ 「保育実習Ⅰ（保育所）」での保育所実習の経験をもとに、自ら実習先保育所を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、課題等より深く理解する。また「養護と教育が一体的に行われる」という保育の原理社会的役割を具体的実践から学び取る。 									
【授業計画】									
第 1 週	1. 保育所の役割や機能の具体的展開を学ぶ。○保育全般に参加し、保育技術を習得する。								
	2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を学ぶ。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。								
	3. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する。								
	4. 子どもの家庭とのコミュニケーションの方法や保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実際を学び理解する。								
	5. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。								
	6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の在り方を学ぶ。								
	7. 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する支援の実際を理解する。								
第 2 週	8. 保育士の業務と職業倫理を理解する。多様な保育の展開と保育士の業務・職業倫理を理解する。								
	9. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。								
(実習期間) (実習園) 別途記載する。									
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況を合わせた総合評価。									
【テキスト及び参考書】									
「実習日誌の書き方」（一藝社）「保育指導案大百科事典」（一藝社）									
「全国保育士倫理綱領ガイドブック」（全国社会福祉協議会）									
「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」「認定こども園教育・保育要領」「認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）「保育実習（保育所）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
【学生へのメッセージ】									
<p>保育実習Ⅱでは、保育所の役割や機能、保育の計画－実践－記録と省察について、実際に体験しながら理解を深めることが求められます。これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験をふまえて、総合的に保育をとらえる意識を実習に臨みましょう。また、「入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援」や関係機関や地域社会との連携・協働については、特に積極的に実習園の先生方にお尋ねしないと理解や学びを深めることが困難です。自ら学ぼうとする意欲、指導を素直に受け止める態度は、実習生として大切な姿勢です。また、「保育者は、子どものモデルである」ことを日ごろから十分に意識し、物事の捉え方、言葉遣い、所作を意識しましょう。学生同士で成長し合える授業にしていきたいと思います。</p>									
【備 考】									
実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。									
平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士（産休代替職員）として勤務。									
平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士（産休代替職員）として勤務。									
平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士（嘱託職員）として勤務。									

平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。
平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。
令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。
※保育実習Ⅰの自己課題を踏まえ、Ⅱの実習に反映させる必要があります。実習の目的と内容は、連続性を持ちなが
発展していくものとなっています。より充実した実習内容となるよう努力していきましょう。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail : enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授 業 科 目 名	保育実習指導 I (保育所)	担 当 教 員 名	城戸 麻美 (他)	単 位 数	1	授 業 区 分	演 習	開 講 時 期	1 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益を考えプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。									
【授業の概要】									
・保育所での保育実習の意義や目的を理解すると共に、保育所における子どもの人権や、最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようにする。 ・実習の計画、実践、観察、記録、自己評価の方法や内容について、観察眼を育成しながら具体的に理解できるようにする。また、子どもの主体性や心の動きを捉えられる感性の大切さに気づかせていく。 ・保育参加・補助の方法・子ども理解の方法等DVD等も活用しながら理解できるようにする。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い自己課題を明確化し、次の実習に繋がれるようにする。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育実習の意義 プライバシーの保護と守秘義務				【事前】 手引きに目を通す。 【事後】 授業の振り返りと全国保育士会倫理綱領の確認。				
第2回	(1) 実習の目的 DVD視聴 (2) 実習の概要 保育所の生活とあそび				【事前】 手引きを通し、実習の目的・施設の概要を読んでおく。 【事後】 DVD視聴振り返り 保育所の生活等の学びを整理する。				
第3回	観察実習事前指導 観察の視点・子どもの人権と最善の利益の考慮				【事前】 手引きの保育所観察実習についてを読んでおく。 【事後】 授業の振り返り。観察について「実習日誌の書き方」を読む。				
第4回	観察実習事後指導 実習における観察、記録及び評価				【事前】 日誌、自己評価、アンケート等書いておく。 【事後】 授業内容の整理・復習・今後の手順を押えておく。				
第5回	保育実習 I (保育所) の課題・実習日誌記入の仕方 (2歳児演習)				【事前】 観察実習を踏まえ、手引きの保育実習 I を読んでおく。 【事後】 授業の振り返りと2歳児の日誌を書く。				
第6回	手遊び、読み聞かせ演習				【事前】 お気に入り絵本(未満児向け)を読み込んでくる。 【事後】 手遊び3つを覚える。(観察実習) 授業内容を整理する。				
第7回	実習日誌の書き方(5歳児演習)				【事前】 5歳児の日誌の環境整備と援助・配慮を整理し、記入し直す。 【事後】 授業内容(保育者○・実習生●)分けて書くことに慣れる)				
第8回	教材作り(パネルシアター)				【事前】 パネルシアター色塗り、切り離しを終えておく。 【事後】 グループで演習をする。				
第9回	グループワーク(パネルシアター演習)				【事前】 効果的な発表の仕方を研究する。 【事後】 振り返り。				
第10回	保育実習(保育所)の課題・指導案の作成 実習における計画と実践				【事前】 保育実習 I に向けての自己課題を明確にする。 【事後】 指導案の仕上げをする。				
第11回	グループワーク(素話発表)				【事前】 冬休み期間中に素話(昔話)を覚える。 【事後】 振り返り。素話を3つ選び、覚える。				
第12回	グループワーク(模擬保育)				【事前】 指導最案を見ることなく行えるようにシミュレーションの練習。 【事後】 評価と振り返り。				
第13回	保育実習 I (保育所) 事前指導 (外部講師による実習直前授業)				【事前】 振り返りを基に再度教材研究をする。 【事後】 特別授業の振り返り。				
第14回	保育実習 I (保育所) 事後指導 実習の総括と自己評価 課題の明確化				【事前】 日誌の仕上げ、自己評価、アンケート等を書いてくる。 【事後】 今後の流れを押え、お礼状の清書をしておく。				
第15回	実習報告会				【事前】 各園の特色を整理しておく。 【事後】 次の実習に向け、自己課題を明確にする。				

【学生に対する評価】

受講態度、教材用作品（パネルシアター）演習、実習に対する取り組みや意欲・日誌・指導案・提出物これらによる総合評価 ※ 手遊び、あそび歌、わらべ歌、素話等学生の前で発表する機会を多く取り入れ、評価する。

【テキスト及び参考書】

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社）

「新聞紙で遊ぼう」（かもがわ出版）

「保育方法・指導法」（ミネルヴァ書房）

【学生へのメッセージ】

目の前の課題に真摯に取り組むことで、振り返ると必ず、自信につながっていきます。一つ一つ小さな積み重ねが、あなたの未来を拓いてくれます。

保育者としてのスキルを一つ一つ身に付け積み重ねていくことで、自信に繋がり、モチベーションも上がります。

後ろ向きでなく、やるべきものの自覚で目の前の一つひとつ丁寧にやり遂げてください。結果は、後からついてきます。

【備 考】

実務経験：平成17年4月より令和7年3月まで社会福祉法人慈母の会浄喜寺保育園にて保育士として勤務。

令和7年4月より令和8年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和8年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:

学校専用E-mail:

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅱ	担 当 教 員 名	榎本 郁美 (他)	単 位 数	1	授 業 区 分	演 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①保育実習Ⅰ（保育所）の自己課題を踏まえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。養護と教育が一体的に行われる保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学び取る。									
②保育の計画、実践観察、記録等について実際に行う中で、理解を深め指導技術を習得できるようにする。									
③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。									
④一人一人が発表する場を設け、表現力や実践力が養えるようにする。									
⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。									
【授業の概要】									
・実習という具体的な実践の中で、子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解や保育所の役割機能についての理解が深められるようにする。									
・既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶ。									
・保育の計画を立て、実際に設定保育を実践する。記録には、的確な記述が求められるが、その為の観察眼の育成やコミュニケーション能力の育成に努める授業の中で、自分とは違う他者への思いやり等の育成に努める。									
・具体的な実践と結び付ける中で、保育士の業務内容や、職業倫理について学びを深めるとともに保育士としての自己課題を明確に意識できるように努める。									
【授業計画】					（事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容））				
第1回	オリエンテーション（授業内容の概要等について） 保育実習Ⅰの振り返り				【事前】保育士会倫理綱領（P10～P34）を読んでおく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第2回	保育実習Ⅰの振り返り及び実習報告会				【事前】保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認する。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第3回	課題作品を使つての演習				【事前】課題作品を使つての演習の練習 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第4回	保育実習Ⅱの意義と目的				【事前】保育実習Ⅱも自己評価表を見直しておく。 【事前】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第5回	実習日誌の書き方について①				【事後】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読んでおく。 【事後】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読み理解する。				
第6回	設定保育について				【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】子どもの主体的活動を促す遊びについて整理する。				
第7回	子どもの主体性を育てる保育とは？				【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】「保育所保育指針」の指定された箇所を読んでおく。				
第8回	子どもに応じた適切な関わり				【事後】授業の振り返り 「保育所保育指針」第2章を読む。 【事後】授業の振り返りとまとめをする。				
第9回	実習のための書類作成				【事前】「実習の手引き」の紹介表、誓約書等の書き方を読んでおく 【事後】下書きの清書を仕上げしておくこと。				
第10回	シミュレーション（模擬保育）				【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。				
第11回	シミュレーション（模擬保育）				【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。				
第12回	シミュレーション（模擬保育）				【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。				
第13回	実習直前指導				【事前】「実習の手引き」の指定された箇所を読んでおく。 【事後】指導案見直しをする。				
第14回	事後指導①（課題の明確化）				【事前】実習施設及担当教員に提出する書類を整えておく。 【事後】お礼状の清書、封筒あて名書き投函準備をする。				
第15回	事後指導②（実習報告会）				【事前】報告会準備をする。 【事後】教育実習Ⅱに向けた自己課題の明確化				
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）
「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社）
「新聞紙で遊ぼうⅡ」（かもがわ出版） 全国保育士会倫理綱領ガイドブック（全国社会福祉協議会）

【学生へのメッセージ】

受講、実習に対する意欲や積極性は、何より大事です。また、実習内容のⅠとⅡの違いをを明確に意識し、連続性を持たせながら実習内容が深まり、確かな保育力に繋がるよう努力してください。結果として、自分の保育者としての自信に繋がることを信じて頑張りましょう。

※事前学習や事後の振り返りを丁寧に行い、主体性をもって意欲的に取り組む姿勢が何より大事です。

【備 考】

実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。

平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士（産休代替職員）として勤務。

平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士（産休代替職員）として勤務。

平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士（嘱託職員）として勤務。

平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。

平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。

令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。

保育実習Ⅰの実習日誌、実習報告書・自己評価を授業に使用します。いつでも使用できるよう準備をしておいて下さい。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授 業 科 目 名	教育実習 I	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。									
②保育に必要な基礎的技術(話法、保育形態、保育展開及び環境構成等)を実地に即して身に付ける。									
③幼稚園教諭の役割、及び職務内容を实地に即して理解する。									
④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。									
【授業の概要】									
実習は基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指して行う。									
実習は、見学・観察実習、参加実習、指導実習など様々な形式で行う。幼稚園での保育に積極的に参加し、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と役割や幼稚園教諭の職務内容を学んでいく。									
更にこの実習を通して学んだ自己の課題を明確化し、幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。									
【授業計画】									
実習園における10日間の実習内容は以下の通りである									
第1週									
)	1. 幼稚園の生活と一日の流れを理解し、保育内容について学ぶ								
	2. 観察と記録、遊びや生活を通して幼児の発達や特性を理解する								
	3. 幼児に対する関わりや保育に必要な基礎的技術等を身に付ける								
第2週	4. 幼児の実態等を踏まえて、部分保育等を実践する								
	5. 社会人としての基本的なマナーを学ぶ								
【学生に対する評価】									
実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社)									
「こどものうた200」(チャレンジ本社)									
【学生へのメッセージ】									
教育実習という貴重な体験を生かし、多くの子どもと積極的に触れ合い、子どもの興味や関心、発達を知り、子どもへの理解を深めてほしいです。また、幼稚園教諭の職務を理解し、社会人としての基本的なマナーや「報告」・「連絡」・「相談」(ほう・れん・そう)を厳守することを心掛けましょう。									
【備 考】									
実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属荻田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。									
令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。									
令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail：				

授 業 科 目 名	教育実習Ⅱ	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①個々の幼児の発達、内面の変化、個性の理解を深め、適切に幼児と関わることができる。									
②幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。									
③幼稚園教諭の役割及び職務内容を实地に即して理解し、他の教職員との連携を身に付ける。									
④保護者や地域の子育て支援、幼児期の教育のセンターとしての社会的役割を学ぶ。									
【授業の概要】									
基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指す。又、幼稚園の通常の教育活動及びそれ以外の行事等の活動を通して、教育的愛情や教育に対する使命感や責任感を養うことをねらいとし、実習園の行事や実習生の状況に応じて、観察・参加実習、責任実習など様々な形で実習を行う。 この実習を通して学んだ自己の課題を明確化し幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。									
【授業計画】									
実習園における10日間の実習内容は以下の通りである									
第1週	1. 幼稚園教諭としての必要な知識、能力、技術を習得する								
	2. 幼児の発達、内面の変化、個性についての理解を深める								
	3. 教職員との連携、協力体制の重要性について理解する								
第2週	4. 観察と関与、記録、指導計画に基づく実践を通して保育技術の伸長を図る								
	5. 地域の子育て支援、幼児期の教育センターとしての社会的役割を理解する								
【学生に対する評価】									
実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
[幼保連携型認定こども園教育・保育要領](平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社)									
「こどものうた200」(チャイルド本社)									
【学生へのメッセージ】									
教育実習Ⅰと同じ実習園で行います。その為、子どもたちの成長に大いに喜びを感じる実習であり、行事等の関わりを通して子どもの発達や幼稚園教諭の職務をより理解することができます。臨機応変に対応する行動力や積極性も求められます。「自分が今できることは何か」を考えて、実習先の教諭と相談しながら積極的に行動していきましょう。									
【備 考】									
実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属荏田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。									
令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。									
令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail：				

授 業 科 目 名	教育実習指導 I	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	0.5	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
②教育実習 I に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。									
③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、今後身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】									
この授業は、幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が有意義に行われるように、事前の心構えや指導計画の作成、事前・事後指導を行うものである。									
教育実習 I では、子どもや保育者の観察に重きを置き、①子どもの発達を知る、②子どもの行動と保育者の援助の意図を探る、③保育の流れや段取りをつかみ、保育技術を高めることを重点目標とする。									
幼児の実態に触れ、実習園の様々な幼児教育の取り組みを理解したうえで、自分で考え、行動し、自ら創る学びを大切にしてほしい。また、実習を経験しての振り返りから自己の課題を見出し、次回の教育実習 II へとつなげていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	教育実習 I の意義と目的、内容理解				【事前】 事前配布資料を通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 2 回	附属幼稚園入園式実習				【事前】 身だしなみを整え持ち物、実習内容の確認				
					【事後】 実習記録と振り返りの記入				
第 3 回	附属幼稚園入園式実習の振り返り 子どもの発達の理解				【事前】 事前に伝えたテキストページを通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 4 回	教育実習における事前指導① (書類準備等)				【事前】 教育実習の手引きを通読し、教育実習において自己の目的を考える				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 5 回	教育実習における事前指導② (実習日誌の書き方)				【事前】 テキスト114P～130Pを通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 6 回	指導計画の作成の方法 (ICT等を利用し調べる)				【事前】 幼稚園教育要領解説96P～120Pを通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 7 回	子どもの行動と保育者の援助とその意図①				【事前】 配布資料を通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 8 回	子どもの行動と保育者の援助とその意図②				【事前】 配布資料を通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第 9 回	教育実習事前指導				【事前】 教育実習の手引きの通読、実習内容の確認				
					【事後】 日誌、実習内容の確認、持ち物等の準備				
第10回	教育実習事後指導				【事前】 日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認				
					【事後】 実習先への日誌の提出、報告書の記入				
第11回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)				【事前】 実習内容をまとめ、自己評価の記入				
					【事後】 報告会の記録、内容のまとめ、資料提出				
第12回	教育実習の自己評価と課題				【事前】 教職履修カルテの記入と自己課題の整理				
					【事後】 教育実習 II に向けて、指導計画の準備と課題の確認				
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「教育実習の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）

「幼稚園教育指導資料第1集 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（チャイルド本社）

「幼稚園教育指導資料第5集 幼児理解に基づいた評価」（チャイルド本社）

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」（チャイルド本社）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

附属幼稚園の卒園式見学に続き、入園式実習を行います。幼稚園生活をスタートする子どもとそれを迎え入れる教諭や園の環境構成等の様子が分かる貴重な機会です。その場で感じたことなど体験を実習に活かしてほしいです。実習開始までの1ヵ月間を有意義な時間とできるよう準備を早めに行い、分からないことや不安なことは担当まで相談にきてください。

【備 考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail： kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科 目 名	教育実習指導Ⅱ	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	0.5	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
②教育実習Ⅱに向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。									
③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、教員免許状取得にまでにさらに身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】									
学内で学んだ理論や技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を幼稚園の現場で養い、そして身に付けた知識をより確かなものにしていくことを目的としている。									
また新しい幼児教育を研究し、一人一人の子どもに寄り添い、日々の変化と成長を感じ取れる職業である幼稚園教諭のやりがいと責任、専門性を理解するとともに自己の課題を明確にしていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	教育実習Ⅱのオリエンテーション (授業内容の概要・幼稚園教諭の職務と役割)				【事前】教育実習Ⅱにおける自己の目的を考えておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	教育実習Ⅰの振り返りと課題の確認				【事前】教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第3回	教育実習の意義と目的				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	記録の書き方① (子どもの主体性の育ちと保育者の関わり)				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	模擬保育①(教材研究、グループ研究)				【事前】年齢別の指導案の作成 【事後】指導案の教材研究と改善				
第6回	模擬保育②(教材研究、グループ研究)				【事前】指導案確認と教材、シミュレーション準備 【事後】シミュレーションの振り返り、指導案の改善				
第7回	模擬保育③(グループ発表、振り返り)				【事前】指導案確認と教材、シミュレーション準備 【事後】シミュレーションの振り返り、指導案の改善				
第8回	教育実習事前指導				【事前】教育実習手引きの通読、実習内容の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第9回	教育実習事後指導				【事前】日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第10回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)				【事前】実習内容をまとめ、自己評価の記入 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第11回	教育実習Ⅱの自己評価				【事前】教職履修カルテの記入と自己課題の明確化をしておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第12回	教育実習の総まとめ				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)

「幼稚園教育指導資料第1集 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(チャイルド本社)

「幼稚園教育指導資料第5集 幼児理解に基づいた評価」(チャイルド本社)

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社)

【学生へのメッセージ】

教育実習Ⅱは、実習の集大成として取り組んでください。幼稚園の行事の見学やお手伝い等、実習生として積極的に行動していくことが大切です。実習を重ねる中で出会った子ども達や先生方の姿から、自分がなりたい理想の保育者を目指して実習に臨んでほしいです。

【備考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

※この授業は2年前期より(教育実習Ⅰが終わり次第)実施します。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科 目 名	幼児と言葉	担 当 教 員 名	城戸 麻美	単 位 数	1	授 業 区 分	演習	開 講 時 期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
現代社会における幼児の言語発達に係る実態や課題を把握し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいを理解する。また専門領域に関する研究成果を踏まえ、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを通して具体的な保育の場面を想定し、子どもたちの言葉を豊かに育てる基本的な実践的方法を身に付ける。									
(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。									
1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。									
2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が遊びを通して学び、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。									
3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。									
4) 領域「言葉」において、幼児が身に付けていく内容と小学校の教科等とのつながりを理解している。									
(2) 幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して基本的な実践方法を身に付ける。									
1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育の重要性を理解している。									
2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の現場での実践に活用することができる。									
3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。									
4) 保育実践とその振り返りを通して、自らの保育を改善する視点を身に付けている。									
5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、自らの保育の質の向上に取り組むことができる。									
【授業の概要】									
幼稚園教育要領「言葉」のねらい及び内容の基礎的内容について学ぶ。子どもの言葉の発達過程を理解し、具体的な指導を想定して言葉の育ちを促す保育教材の製作等を行う。また、授業で学んだことを活かし、附属幼稚園の幼児への「おはなし会」を行い、グループワークでの教材研究や模擬保育、終了後には振り返りを行い「コミュニケーション能力の育成」「子どもへの配慮・思いやり」「観察眼の育成」を目指す。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	幼児教育の基本と領域「言葉」				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	言葉を豊かにする保育環境				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第3回	言葉の発達を促す児童文化財				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
	(紙芝居の実際)				【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	言葉の発達を促す児童文化財の実際				【事前】紙芝居の実演の準備、練習				
	(「紙芝居」の教材研究・グループワーク)				【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	領域「言葉」のねらい及び内容の理解				【事前】幼稚園教育要領解説の指示された箇所を通読しておくこと				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	乳児期の「言葉」と他領域との関り				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第7回	言葉を育む環境と援助①				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
	(気になる子どもへの言葉の発達のサポート)				【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第8回	言葉を育む環境と援助②				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
	(日本語を母語としない子どもへの関りを考える)				【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第9回	子どもの言葉の世界を広げる言葉遊び				【事前】配布資料を通読しておくこと				
					【事後】手作りカルタ作りの制作				
第10回	5歳児の言葉を育てる指導の実際				【事前】手作りカルタの発表準備				
	(附属幼稚園「おはなし会」に向けて5歳児の幼児理解)				【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第11回	5歳児の言葉を育てる指導と指導計画				【事前】児童文化財の準備、配布資料の通読				
	「おはなし会」での指導案の作成、教材研究・グループワー				【事後】グループワークの内容をもとに指導案の作成				
第12回	5歳児の言葉を育てる指導計画の構想				【事前】指導案の作成、シミュレーションの準備				
	(「おはなし会」のシミュレーションと改善)				【事後】シミュレーションを振り返り、指導案の改善				

授 業 科 目 名	教職実践演習 (幼)	担 当 教 員 名	加来 栄治 (他)	単 位 数	2	授 業 区 分	演 習	開 講 時 期	2 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習、保育実習等の現場体験の成果を振り返り、既習の授業や活動を通して教員としての資質が身に付いているか等、学生が自己の課題に気づき問題解決していく。									
②教員になる上で、不足している知識や技能等を補い知識・技術や教養の定着を図る。									
③学生一人一人の履修を把握し、将来幼児教育に携わる者としての自覚や実践的指導力を身に付ける。									
【授業の概要】									
授業を進めるに当たっては、一人一人の学生が積極的に学習内容に関われるよう、グループを中心に展開し、コミュニケーション能力や観察眼の育成に努める。大きくは以下の3点の内容をもとに取り組む。									
①乳幼児の理解を深めることを通して、学級経営力や人間関係能力の育成。									
②乳幼児の発達と保育内容との関連を学ぶことを通して、幼児期にふさわしい生活の具現化の考察。									
③「教員として求められる4つの事項」をもとに、教員としての責務及び役割について考察。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション、既習の授業や教育実習Ⅰでの学びの成果と課題の把握(履修カルテを持参)			【事前】教職履修カルテの記入をしておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	教育実習Ⅱの振り返り(実習記録などを準備) 教育実習Ⅱを通しての自己課題の確認			【事前】実習日誌、実習記録等の準備 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第3回	教育実習Ⅱを通して体験した事例についてのグループ討議(討議内容をまとめ、発表準備)			【事前】自分の実習内容をまとめておくこと 【事後】授業レポートの作成、発表準備					
第4回	実習を通して体験した事例についてのグループ発表			【事前】発表内容をまとめておくこと 【事後】授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	教職の意義・役割・職務内容についての確認			【事前】ITC等を使用し教職について事前に調べておくこと 【事後】授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	指導案の作成			【事前】年齢別の指導案の作成 【事後】授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第7回	指導案の仕上げ及びグループ内でのシミュレーション			【事前】年齢別の指導案の作成 【事後】授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第8回	模擬保育発表①			【事前】模擬保育の教材の準備 【事後】模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第9回	模擬保育発表②			【事前】模擬保育の教材の準備 【事後】模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第10回	模擬保育発表③			【事前】模擬保育の教材の準備 【事後】模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第11回	模擬保育発表④			【事前】模擬保育の教材の準備 【事後】模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第12回	模擬保育発表⑤			【事前】模擬保育の教材の準備 【事後】模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第13回	荻田幼稚園における模擬保育発表			【事前】実践発表の準備 【事後】実践発表の振り返りと自己評価を記入					
第14回	荻田幼稚園にて設定保育			【事前】実践発表の準備 【事後】授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第15回	幼稚園の基本を踏まえた教育の大切さの確認・まとめ			【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】授業内容を振り返り、課題レポートの作成					

【学生に対する評価】

発表内容（40%）、提出物（40%）、受講態度（20%）などによる総合評価

【テキスト及び参考書】

「幼稚園教育指導資料第5集 幼児理解に基づいた評価」（チャイルド本社），適宜資料を配布

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月 文部科学省）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）

【学生へのメッセージ】

グループ活動や保育案づくり、設定保育などを通して、他の人の考え方に触れ、自分自身の課題を確認するとともに課題解決のために、積極的にコミュニケーションを図ったり、他の人の良いところを自分の中に取り込んだりするようにしましょう。

【備 考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

教員の連携・協力体制

幼稚園や保育所の実習担当教員、教科担当とも連携し、演習の推進に当たる。また、附属幼稚園の先生方の協力を得て、より具体的な実践演習や保護者との対応なども取り入れる。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授業科目名	介護の基本A	担当教員名	森本 春子	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年前期
【授業の到達目標】									
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その機能と役割の概要を理解する。									
【授業計画】									
第1回	オリエンテーション(自己紹介、授業の勧め方、学習方法) 介護の基本となる理念・介護の成り立ち								
第2回	介護を取り巻く状況		介護の社会化						
第3回	介護の歴史		介護サービスの量的拡充						
第4回	サービスの質的拡充		介護福祉の基本理念						
第5回	自立を支える介護		尊厳を支える介護						
第6回	社会福祉士法及び介護福祉士法			社会福祉士法、介護福祉士法における諸規定					
第7回	介護福祉士の役割と機能			地域共生社会と・災害時・看取り時の役割					
第8回	前半のまとめ			介護福祉士を支える団体					
第9回	介護福祉士の倫理			介護福祉士の倫理の実践					
第10回	日本介護福祉士会の倫理綱領・介護福祉士の専門性			自立に向けた支援					
第11回	ICF 自立支援とエンパワメント								
第12回	生活意欲と活動			自立支援とリハビリテーション					
第13回	リハビリテーションの実際と介護福祉士の役割			自立支援と介護予防					
第14回	介護予防の概要		介護予防の種類		介護予防における介護福祉士の役割				
第15回	まとめ								
【学生に対する評価】									
定期試験・小テスト・レポートの提出状況とその内容・授業態度などを総合的に評価する									
【テキスト及び参考書】									
最新介護福祉士養成講座 第3巻 第3版「介護の基本 I」(中央法規)									
受験ワークブック 上(中央法規)									
必要に応じて資料配布									
担当教員 実務経験					特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務・居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務				
担当教員E-mail h-morimoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail				

授業科目名	介護の基本B	担当教員名	森本 春子	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年前期
【授業の到達目標】									
介護福祉の基本となる理念のもとに、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門性を目指す力をつける事が出来る。									
【授業計画】									
第1回	オリエンテーション 介護を必要とする人の理解・生活の理解								
第2回	生活の特性・高齢者の暮らし								
第3回	障害のある方の生活								
第4回	家族介護者の理解と支援 介護福祉を必要とする人の生活を支える。								
第5回	高齢者の為のフォーマルサービス 生活を支えるインフォーマルサービス								
第6回	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係性 地域連携の目的と意義								
第7回	地域連携にかかわる組織と団体の概要								
第8回	前半のまとめ 介護における安全の確保とリスクマネジメントセーフティーマネジメント								
第9回	リスクマネジメント 介護における医行為 介護における事故と法的責任								
第10回	福祉サービスに求められる安全・安心 身体拘束								
第11回	感染症 感染対策の基本的な方法 バイタルサインの測定								
第12回	協働する多職種の機能と役割 多職種連携の必要性 保健・医療・福祉職								
第13回	多職種連携・協働の実際 介護従事者の安全・健康管理の重要性								
第14回	介護従事者を守る法制度 介護に従事する人の健康問題								
第15回	心身の健康管理 まとめ								
【学生に対する評価】									
定期試験・小テスト・レポートの提出状況とその内容・授業態度などを総合的に評価する									
【テキスト及び参考書】									
最新介護福祉士養成講座 第3巻 第3版「介護の基本I」(中央法規)									
受験ワークブック 上(中央法規)									
必要に応じて資料配布									
担当教員 実務経験 特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務・居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務									
担当教員E-mail h-morimoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail				

授業科目名	せいかつしえんぎじゆつ 生活支援技術A	担当 教員名	森本 春子 木島 みどり	単位数	2	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標】									
<p>そんげん ほじ じりつしえん せいかつ ゆた かんてん ほんにんしゆたい せいかつ けいぞく こんきよ もと かいごじつせん 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を おこな ちしき み につける。 かにせいかつ か い しよく じゆう きそ りかい あんぜん かにてき せいかつ かんり ちしき ぎじゆつ しゆうとく せい 家庭生活に欠かせない「衣・食・住」の基礎を理解し、安全で快適に生活を管理できる知識や技術を習得しよりよい生 かつしえん かつた まな かいご ぎのう み 活支援のあり方を学び介護につながられる技能を身につける。</p>									
【授業計画】									
【森本】					【木島】				
第1回	せつめい せいかつしえん なに いぎ もくてき シラバスの説明・生活支援とは何か(意義と目的)				しよくせいかつ きそちしき しよくじ いぎ えいよう りかい 食生活の基礎知識 食事の意義と栄養の理解				
第2回	せいかつしえん かいごかてい 生活支援と介護過程				ちようりじししゆう にちじようしよく ちようり 調理実習1 日常食の調理				
第3回	きょじゆうかんきよう せいび たしよくしゆ れんけい 居住環境の整備 多職種との連携				だしのとり方 野菜の切り方、配膳の仕方				
第4回	きょじゆうかんきよう せいび じたく まど きけんかしよ 居住環境の整備 自宅の間取りと危険箇所				いせいかつ きそちしき いふく きのう かんり 衣生活の基礎知識 衣服の機能と管理				
第5回	せいかつしえん ふくしよく かつよう 生活支援と福祉用具の活用				にちじようてき ほしゆうぎじゆつ 日常的な補修技術(ボタンつけ、ほつれ補修など)				
第6回	ふくしよく えら してん 福祉用具を選ぶための視点				いせいかつ しえん せんたく しゆうのう 衣生活の支援(洗濯、収納)				
第7回	かにせいかつ かかわ きそちしき 家庭生活に係る基礎知識				きそぬ りよう こもの 基礎縫いを利用した小物づくり①				
第8回	じりつ む かに かいご 自立に向けた家事の介護				きそぬ りよう こもの 基礎縫いを利用した小物づくり②				
第9回	かに かいご たしよくしゆ れんけい 家事の介護における多職種との連携				きそぬ りよう こもの 基礎縫いを利用した小物づくり③				
第10回	きんきゆうじ たいおう 緊急時の対応				かに かいご かにしえん いぎ もくてき 家事の介護 家事支援の意義と目的				
第11回	さいがいじ せいかつしえん 災害時における生活支援				ちようりじししゆう かいごしよく ちようり 調理実習2 介護職の調理				
第12回	さいがいじ せいかつしえん 災害時における生活支援				さいがいじ かいごふくしし やくわり 災害時における介護福祉士の役割				
第13回	さいがいじ せいかつしえん 災害時における生活支援				さいがいじ しえん 災害時の支援なにができるか? グループワーク				
第14回	さいがいじ せいかつしえん 災害時における生活支援				さいがいじ しえん ほんびよう 災害時の支援できること(発表)				
第15回	さいがいじ せいかつしえん 災害時における生活支援				さいがいじ しえん ほんびよう 災害時の支援できること(発表)				
第15回	さいがいじ せいかつしえん 災害時における生活支援				じゆうせいかつ きそちしき 住生活の基礎知識				
	だん つく 段ボールトレを作ってみよう まとめ				あんぜん かにてき す 安全で快適に過ごすための環境整備や清掃の技術				
【学生に対する評価】									
<p>ていきけん しょう ていしゆづようきよう ないよう じゆぎようたいど そうごうてき ひようか ・定期試験 ・小テスト ・レポートの提出状況とその内容 ・授業態度などを総合的に評価する</p>									
【テキスト及び参考書】									
<p>さいしん かいごふくしし とうせいこうざ だい かん せいかつしえん ぎじゆつ ちゆうおうほうき ・最新介護福祉士養成講座 第6巻「生活支援技術 I」(中央法規)</p> <p>じゆけん うえ ちゆうおうほうき ・受験ワークブック 上(中央法規)</p> <p>ひつよう おう しりよう はいふ ・必要に応じて資料配布</p>									
<p>たんとうきよういんじつむけいけん とくべつようごうらうじん かいごふくしし きんむ きょたくかいごしえんぎじゆうしよ きんむ 担当教員 実務経験 ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務</p>									
担当教員E-mail h-morimoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail kamiduru@tohaya.ac.jp				

授業科目名	かいご がかてい 介護過程 I	担当 教員名	森本 春子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標】									
かいごふくしよく ひつよう かいごがかてい しこうかてい りかい しゅうとく じっせん こと 介護福祉職として必要な介護過程における思考過程を理解・習得・実践する事ができる りようしゃほんいん かいごじっせん こんきよ もと ていきよう かいごけいかく りつあん じっせん ちから み 利用者本位の介護実践を根拠に基づき 提供するための介護計画の立案・実践する力を身につける。									
【授業計画】									
第1回	オリエンテーション ～ かいごがかてい まな 介護過程で学ぶこと ～								
第2回	かいごがかてい いぎ もくてき 介護過程の意義と目的								
第3回	かいごがかてい きほんしてん かんが かつ かいごがかてい ひつようせい 介護過程の基本視点 ICFの考え方と介護過程の必要性								
第4回	かいごがかてい ぜんたいぞう かもと じょうほう せいり 介護過程の全体像 ICFに基づいて情報を整理する								
第5回	かいごがかてい ぜんたいぞう 介護過程の全体像 アセスメントについて								
第6回	かいごがかてい てんかい りかい きほんてきしてん 介護過程の展開:アセスメントの理解(アセスメントの基本的視点)								
第7回	かいごがかてい てんかい りかい じょうほうしゅうしゅう りかい 介護過程の展開:アセスメントの理解(情報収集の理解)								
第8回	かいごがかてい てんかい りかい じょうほう かいしゃく かんれんづ どうごうか 介護過程の展開:アセスメントの理解(情報の解釈・関連付け・統合化)①								
第9回	かいごがかてい てんかい りかい じょうほう かいしゃく かんれんづ どうごうか 介護過程の展開:アセスメントの理解(情報の解釈・関連付け・統合化)②								
第10回	かいごがかてい てんかい りかい ひょう さくせい 介護過程の展開:アセスメントの理解(アセスメント表の作成)								
第11回	かいごがかてい てんかい かいごけいかくりつあん りかい ちょうきもくひょう たんきもくひょう せつてい 介護過程の展開:介護計画立案の理解(長期目標・短期目標の設定)								
第12回	かいごがかてい てんかい じっし 介護過程の展開:実施								
第13回	かいごがかてい てんかい ひょうか 介護過程の展開:評価								
第14回	かいごがかてい てんかい ふくしゅう 介護過程の展開の復習								
第15回	まとめ								
【学生に対する評価】									
ていきしけん しょう ていしゅぶようきよう ないよう じゅぎょうたいど そうごうてき ひょうか ・定期試験 ・小テスト ・レポートの提出状況とその内容 ・授業態度などを総合的に評価する									
【テキスト及び参考書】									
さいしん かいごふくし しようせいこうざ だい かん だい ほん かいごがかてい ちゅうおうほうき ・最新介護福祉士養成講座 第9巻 第2版 「介護過程」(中央法規)									
じゅけん うえ ちゅうおうほうき ・受験ワークブック 上(中央法規)									
ひつよう おう しりょう はいふ ・必要に応じて資料配布									
たんとうきょういんじつむけいけん 担当教員 実務経験 ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務									
担当教員E-mail h-morimoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail				

授業科目名	かいご がかてい 介護過程Ⅱ	担当 教員名	森本 春子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標】									
かいごふくしよく ひつよう かいごがかてい しこうがかてい りかい しゅうとく じっせん こと 介護福祉職として必要な介護過程における思考過程を理解・習得・実践することができる りようしゃほんいん かいごじっせん こんきよ もと ていきよう かいごけいかく りつあん じっせん ちから み 利用者本位の介護実践を根拠に基づき 提供するための介護計画の立案・実践する力を身につける。									
【授業計画】									
第1回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	じょうほう せいり 情報の整理①						
第2回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	じょうほう せいり 情報の整理②						
第3回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	じょうほう かいしゃく かんれんづ 情報の解釈・関連付け①						
第4回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	じょうほう かいしゃく かんれんづ 情報の解釈・関連付け②						
第5回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	きょうゆう イメージの共有						
第6回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだい ちゅうしゅつ 生活課題の抽出①						
第7回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだいのちゅうしゅつ 生活課題の抽出②						
第8回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだいのちゅうしゅつ 生活課題の抽出③						
第9回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだいのちゅうしゅつ 生活課題の抽出④						
第10回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだいのちゅうしゅつ 生活課題の抽出⑤						
第11回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 1 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだい きょうゆう せいかつかだい ひょうげんほうほう 生活課題の共有、生活課題の表現方法						
第12回	かいごがかてい じっせんてきてんかい じれいけんとう 介護過程の実践的展開:事例検討	1	せいかつかだい きょうゆう せいかつかだい ひょうげんほうほう 生活課題の共有、生活課題の表現方法						
第13回	じっしゅう お じれいはっぴょう 実習Ⅱ-1を終えての事例発表①								
第14回	実習Ⅱ-1を終えての事例発表②								
第15回	実習Ⅱ-1を終えての事例発表③		まとめ						
【学生に対する評価】									
ていきしけん しょう ていしゅぶようきよう ないよう じゅぎょうたいど そうごうてき ひょうか ・定期試験 ・小テスト ・レポートの提出状況とその内容 ・授業態度などを総合的に評価する									
【テキスト及び参考書】									
・最新介護福祉士養成講座 第9巻 第2版 「介護過程」(中央法規)									
じゅけん うえ ちゅうおうほうき ・受験ワークブック 上(中央法規)									
ひつよう おう しりょう はいふ ・必要に応じて資料配布									
たんとうきょういんじつむけいけん 担当教員 実務経験 ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務									
担当教員E-mail h-morimoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail				

授 業 科 目 名	かいごそうごうえんしゅう 介護総合演習 I	担 当 教 員 名	堤 由加里	単 位 数	2	授 業 区 分	演習	開 講 時 期	1年 前期
【授業の到達目標】									
じっしゅう じぎょうしょ かりかい かくりょういき まな ちしき ぎじゅつ とうごう せんもんしよく たいど しゅうとく 実習する事業所について理解し、各領域で学んだ知識と技術を統合しながら、専門職としての態度を習得する。									
【授業計画】									
第1・2回	介護総合演習で何を学ぶか / 介護実習で何を学ぶか								
第3・4回	介護実習の意義と目的 / 介護実習のおもな流れ								
第5・6回	介護実習の種類 / 実習前の学びと、実習後の学びのいかし方								
第7・8回	介護実習前の学習の内容と方法								
第9・10回	介護実習中の学習の内容と方法 / 介護実習後の学習の内容と方法								
第11・12回	実習先の特徴、実習先での学び 通所介護 / 通所リハビリテーション								
第13・14回	介護実習 I のねらいと実習モデル								
第15回	介護実習 I ー① 実習に関する書類の意義、目的、記録方法 について								
)	・介護実習支援システムについて 実習日誌 / 実習計画書 / 事前学習レポート / 学生情報								
	実習施設・事業所情報 / 介護技術実施状況確認表 / 自己評価表 / 実習報告書 など								
	・誓約書について								
	・事前オリエンテーションについて								
第22回	・実習の心得について								
第23・24回	介護実習 I ー① 振り返り								
	・お礼状作成 / 自己評価表作成 / 実習報告書作成								
【学生に対する評価】									
ていましけん しょう かいだい ていしゅぎょうきょう ないよう ・定期試験 ・小テスト ・レポート課題の提出状況とその内容 じゅこう えんしゅう たい いよく とく などを総合的に評価する ・受講、演習に対しての意欲や取り組み									
【テキスト及び参考書】									
さいしん かいごふくししやうせいこうざ だい かん かいごそうごうえんしゅう かいごじっしゅう ちゅうおうほうき ・最新 介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」(中央法規) ひつよう おう しりょうはいふ ・必要に応じて資料配布									
たんとくきょういんじつむけいけん 担当教員 実務経験 ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務									
担当教員E-mail		tsutsumi@tohaya.ac.jp			学校専用E-mail				

授業科目名	介護総合演習Ⅱ	担当教員名	堤 由加里	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年後期
【授業の到達目標】									
実習する施設、ならびに各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践につなげながら、個別ケアについて学ぶ。									
【授業計画】									
第1回	実習日誌における「評価・考察」の振り返り / 介護実習 I-① 実習報告会準備								
第2回	介護実習 I-① 実習報告会								
第3回	介護実習 I-①における自己課題の明確化と対策								
第4回	介護実習 I-② 実習先の特徴、実習での学び 介護老人福祉施設								
第5回	" 介護老人保健施設								
第6回	" 特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム								
第7回	介護実習 I-② 実習計画書作成								
第8回	事前学習 介護の現場でよく見る薬について								
第9回	介護実習 I-② 帰校日 アセスメント個別指導①								
第10回	" アセスメント個別指導②								
第11回	介護実習 I-② 振り返り お礼状作成 / 自己評価表作成 / 実習報告書作成								
第12回	介護実習 I-② 実習報告会								
第13回	介護実習 I-②における自己課題の明確化と対策								
第14回	介護実習 I-③にむけて 認知症利用者のレクリエーション								
第15回	まとめ								
【学生に対する評価】									
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・レポート課題の提出状況とその内容 ・受講、演習に対しての意欲や取り組み などを総合的に評価する 									
【テキスト及び参考書】									
<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」(中央法規) ・必要に応じて資料配布 									
担当教員 実務経験 <small>たんとうきょういんじつむけいけん</small> ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務									
担当教員E-mail <small>tsutsumi@tohaya.ac.jp</small> 学校専用E-mail									

授業科目名	かいごじっしゅう 介護実習Ⅰ-①	担当 教員名	堤 由加里	単位数	2	授業 区分	実習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標】									
つうしょかいご 通所介護や通所リハビリテーションにおいて、利用者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや 生活支援を行う基礎的能力を習得する。									
【授業計画】									
第1日	※各施設の実習スケジュール内容に応じて、実習を実施する。								
	・実習施設の役割・特徴の理解								
	・対人援助者として必要とされる礼儀、態度、言葉遣い等の理解								
	・施設利用者の一日の生活の流れの理解、および具体的な介護業務の実施								
第2日	・利用者とのコミュニケーションと利用者理解								
	・介助場面の見学、実際の介助・支援の体験								
	・実習日誌による評価・考察、指導者への提出								
【学生に対する評価】									
実習終了後に返送される実習評価表の結果に基づき総合評価を行う。									
・実習評価表に予め10項目の評価内容(礼儀・態度、責任感、積極性、学習意欲、人間関係、注意力、技術力、 観察力、記録能力、適性)および、それぞれの項目に対して具体的な評価規準を定めている。									
・実習指導者が各項目についてA～Eの5段階評価を行い、各評価内容に対する所見、および実習全体の総合 50点満点で、秀=45点以上、優=40～44点、良=35～39点、可=20～34点、不可=19点以下もしくはE評価 が2つ以上ある場合として評価する。									
・上記の実習評価表による評価を主とするが、実習指導者の所見内容、および学生の実習意欲や態度、実習 日誌や課題等の諸提出物の状況や内容等を踏まえ、最終的な評価を行う。									
【テキスト及び参考書】									
・最新 介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」(中央法規)									
・介護総合演習の授業配布プリント									
担当教員	実務経験	・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務							
担当教員E-mail	tsutsumi@tohaya.ac.jp	学校専用E-mail							

授 業 科 目 名	介護実習 I ー②	担 当 教 員 名	堤 由加里	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	1 年 後 期
【授業の到達目標】									
<small>かいごほけんしせつとう</small> 介護保険施設等において、利用者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う 基礎的能力を習得する。									
【授業計画】									
第1日	※各施設の実習スケジュール内容に応じて、実習を実施する。								
	・実習施設の役割・特徴の理解								
	・対人援助者として <small>ふさわ</small> 相応しい <small>ぎじゆつ</small> コミュニケーション技術の習得								
	・施設利用者の一日の生活の流れの理解、および具体的な介護業務の実施								
	・介助場面 の見学、 <small>きほんてき</small> 基本的な介助・支援の実施								
	・ <small>かいごふくしし</small> 介護福祉士の役割と <small>しよくむ</small> 職務の理解								
	・実習日誌による評価・考察、指導者への提出								
第12日	・ <small>じょうほうしゆうしゆう</small> 情報収集による利用者の <small>じょうたいぞう</small> 状態像の把握、 <small>はあく</small> アセスメント表の提出								
【学生に対する評価】									
実習終了後に返送される実習評価表の結果に基づき総合評価を行う。									
・実習評価表に予め10項目の評価内容(責任感、積極性、学習意欲、人間関係、 <small>はんだんりよく</small> 判断力、注意力、技術力、 観察力、記録能力、適性)および、それぞれの項目に対して具体的な評価規準を定めている。									
・実習指導者が各項目についてA～Eの5段階評価を行い、各評価内容に対する所見、および実習全体の総合 50点満点で、秀＝45点以上、優＝40～44点、良＝35～39点、可＝20～34点、不可＝19点以下もしくはE評価 が2つ以上ある場合として評価する。									
・上記の実習評価表による評価を主とするが、実習指導者の所見内容、および学生の実習意欲や態度、実習 日誌や課題等の諸提出物の状況や内容等を踏まえ、最終的な評価を行う。									
【テキスト及び参考書】									
・最新 介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」(中央法規) ・介護総合演習の授業配布プリント									
<small>たんとくきょういんじつむけいけん</small> 担当教員 実務経験					・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務				
担当教員E-mail		tsutsumi@tohaya.ac.jp			学校専用E-mail				

授業科目名	こころとからだのしくみⅠ	担当教員名	堤 由加里	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年前期
【授業の到達目標】									
かいごじっせん こんきょ にんげん しんり じんたい こうぞう きのう りかい 介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解できる。									
【授業計画】									
第1回	オリエンテーション / 健康とは何か / こころのしくみを理解する								
第2回	こころのしくみを理解する		にんげん よっきゅう じ こじつげん そんげん 人間の欲求とは / 自己実現と尊厳						
第3回	〃		こころのしくみの基礎						
第4回	からだのしくみを理解する		からだのつくりの理解						
第5回	〃		さいぼう いでん のう しんけい 細胞・遺伝・脳・神経						
第6回	〃		かんかくき ① しかくき へいこうちょうかくき 感覚器①(視覚器・平衡聴覚器)						
第7回	〃		きゅうかくき みかくき ひふ 感覚器②(嗅覚器・味覚器・皮膚)						
第8回	〃		こきゅうき ① 呼吸器①(呼吸器の構造)						
第9回	〃		呼吸器②(呼吸器のしくみ)						
第10回	〃		じゅんかんき ① 循環器①(循環器の構造)						
第11回	〃		循環器②(循環器のしくみ)						
第12回	〃		しょうかき ① 消化器①(消化器の構造)						
第13回	〃		消化器②(消化器のしくみ)						
第14回	〃		ひにょうき ① 泌尿器①(泌尿器の構造)						
第15回	〃		はいにょう はいべん 泌尿器②(排尿のしくみと排便のしくみ)						
【学生に対する評価】									
<ul style="list-style-type: none"> ていきしけん しょう ・定期試験 ・小テスト かだい ていしゅつじょうきょう ないよう ・レポート課題の提出状況とその内容 じゅこう えんしゅうたい いよく とく しょうごうてき ひょうか ・受講、演習に対しての意欲や取り組みなどを総合的に評価する 									
【テキスト及び参考書】									
<ul style="list-style-type: none"> さいしんかいごふくししょうせいこうざ だい かん ちゅうおうほうき 最新 介護福祉士養成講座 第14巻「こころとからだのしくみ」(中央法規) じゅけん げ ちゅうおうほうき 受験ワークブック 下(中央法規) ひつよう おう しりょうはいふ 必要に応じて資料配布 									
たんとくきょういんじつむけいけん とくべつようごろうじん かいごふくし きんむ びょういんかんごし きんむ 担当教員 実務経験 ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務									
担当教員E-mail		tsutsumi@tohaya.ac.jp			学校専用E-mail				

授業科目名	ところとからだのしくみⅡ	担当教員名	堤 由加里	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年前期
【授業の到達目標】									
<p>介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解できる。</p> <p>また心身の機能が生活に及ぼす影響から、介護実践における安全への留意点について理解できる。</p>									
【授業計画】									
第1回	からだのしくみを理解する	ほね きんにく かんせつ 骨・筋肉・関節							
第2回	〃	筋肉・関節 / しんけいけい 神経系							
第3回	〃	せいしよくき ないぶんびつ 生殖器・内分泌							
第4回	〃	内分泌 / けつえき たいえき 血液・体液・リンパ液							
第5回	〃	せいめい いじ 生命を維持するしくみ							
第6回	いどう かんれん 移動に関連したところとからだのしくみ	移動のしくみ①							
第7回	〃	移動のしくみ①							
第8回	〃	ていか およ えいきよう 心身の機能低下が移動に及ぼす影響							
第9回	〃	へんか き たいおう 変化の気づきと対応							
第10回	み 身じたくに関連したところとからだのしくみ	身じたくのしくみ①							
第11回	〃	身じたくのしくみ②							
第12回	〃	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響							
第13回	〃	変化の気づきと対応							
第14回	まとめ①(からだのしくみ)								
第15回	まとめ②(移動・身じたくに関連したところとからだのしくみ)								
【学生に対する評価】									
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・レポート課題の提出状況とその内容 ・受講、演習に対しての意欲や取り組み などを総合的に評価する 									
【テキスト及び参考書】									
<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 第14巻「ところとからだのしくみ」(中央法規) ・受験ワークブック 下(中央法規) ・必要に応じて資料配布 									
たんとくきょういんじつむけいけん 担当教員 実務経験 <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務 									
担当教員E-mail		tsutsumi@tohaya.ac.jp			学校専用E-mail				

授業科目名	こころとからだのしくみⅢ	担当教員名	堤 由加里	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年後期
【授業の到達目標】									
心身の機能が生活に及ぼす影響から、介護実践における安全への留意点について理解できる。									
【授業計画】									
第1回	しょくじ 食事に関連したこころとからだのしくみ			食事のしくみ①					
第2回	〃			食事のしくみ②					
第3回	〃			心身の機能低下が食事に及ぼす影響					
第4回	〃			変化の気づきと対応					
第5回	〃			まとめ					
第6回	にゅうよく せいけつほじ 入浴・清潔保持に関連したしくみ			入浴・清潔保持のしくみ①					
第7回	〃			入浴・清潔保持のしくみ②					
第8回	〃			心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響					
第9回	〃			変化の気づきと対応					
第10回	〃			まとめ					
第11回	はいせつ 排泄に関連したこころとからだのしくみ			排泄のしくみ①					
第12回	〃			排泄のしくみ②					
第13回	〃			心身の機能低下が排泄に及ぼす影響					
第14回	〃			変化の気づきと対応					
第15回	〃			まとめ					
【学生に対する評価】									
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 小テスト レポート課題の提出状況とその内容 ・受講、演習に対しての意欲や取り組みなどを総合的に評価する 									
【テキスト及び参考書】									
<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 第14巻「こころとからだのしくみ」(中央法規) ・受験ワークブック 下(中央法規) ・必要に応じて資料配布 									
たんとくきょういんじつむけいけん 担当教員 実務経験 <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務 									
担当教員E-mail		tsutsumi@tohaya.ac.jp			学校専用E-mail				

授業科目名	発達と老化の理解 I	担当教員名	白石 結香	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年前期
【授業の到達目標】									
<p>・人が生まれてから死に至るまでのそれぞれの発達段階における特徴や発達課題及び生涯発達の考え方について理解する。</p> <p>・老化に伴う心理・社会的な変化が高齢者の日常生活に、どのような影響を及ぼすのかについて理解を深める。</p>									
【授業計画】									
第1回	オリエンテーション / 成長・発達の考え方 / 生涯発達とは								
第2回	成長・発達の原則及び法則 / 成長・発達に影響する遺伝的要因と環境的要因の関係								
第3回	エリクソンの発達理論								
第4回	発達に伴う特徴的な疾病や障害								
第5回	身体的機能の成長と発達								
第6回	ピアジュの認知発達理論								
第7回	子どもの社会性の発達の理解 / 愛着について								
第8回	老年期の定義 / 老化とは								
第9回	老年期の発達課題 / 「喪失」と「喪失体験」								
第10回	バルデスの発達理論								
第11回	高齢者が歩んできた時代								
第12回	老化による認知機能・知的機能の変化								
第13回	人間の欲求・動機づけ / 適応機制								
第14回	老化に伴う社会的な変化と生活への影響								
第15回	まとめ								
【学生に対する評価】									
<p>・定期試験 ・小テスト ・レポートの提出状況とその内容 ・授業態度などを総合的に評価する</p>									
【テキスト及び参考書】									
<p>・最新介護福祉士養成講座 第12巻「発達と老化の理解」(中央法規)</p> <p>・受験ワークブック 上(中央法規)</p> <p>・必要に応じて資料配布</p>									
担当教員 実務経験					<p>・病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務</p> <p>・病院で看護師として勤務</p>				
担当教員E-mail					学校専用E-mail				

授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ	担当教員名	白石 結香	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年後期
【授業の到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う身体的な変化と生活への影響について理解する。 ・高齢者に多い症状、疾患について理解し、それらが日常生活にどのように影響するのか理解する。 									
【授業計画】									
第1回	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①								
第2回	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②								
第3回	老化に伴う身体的な変化と生活への影響③								
第4回	健康長寿に向けてのサクセスフルエイジング								
第5回	高齢者の症状や疾患の特徴 / 高齢者に特有な症候								
第6回	高齢者に多い疾患と生活上の留意点 骨格系・筋系の病気								
第7回	" 脳・神経系の病気								
第8回	" 感覚器系の病気								
第9回	" 循環器系の病気								
第10回	" 呼吸器系の病気、消化器系の病気								
第11回	" 腎・泌尿器系の病気、内分泌・代謝系の病気								
第12回	" 歯・口腔疾患の病気、悪性新生物(がん)								
第13回	" 感染症、精神疾患								
第14回	保健医療職との連携								
第15回	まとめ								
【学生に対する評価】									
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験・小テスト・レポートの提出状況とその内容・授業態度などを総合的に評価する 									
【テキスト及び参考書】									
<ul style="list-style-type: none"> ・最新介護福祉士養成講座 第12巻「発達と老化の理解」(中央法規) ・受験ワークブック 上(中央法規) ・必要に応じて資料配布 									
担当教員 実務経験					<ul style="list-style-type: none"> ・病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務 ・病院で看護師として勤務 				
担当教員E-mail					学校専用E-mail				

授 業 科 目 名	いりょうてき 医療的ケア I	担 当 教 員 名	堤 由 加 里	単 位 数	1	授 業 区 分	講 義	開 講 時 期	1 年 後 期
【授業の到達目標】									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な基礎的知識を習得する。									
【授業計画】									
第1回	医療的ケア	医療的ケアとは / 医行為について							
		かくたんきゅういんとうせいど しゃかいふくししおよ かいごふくししほう かいせい① 喀痰吸引等制度 (社会福祉士及び介護福祉士法の改正)①							
第2回	〃	喀痰吸引等制度 (社会福祉士及び介護福祉士法の改正)②							
		医療的ケアと喀痰吸引等の背景							
第3回	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施							
第4回	〃	救急蘇生							
第5回	清潔保持と感染予防	感染予防 / 演習1 手洗い 演習2 使い捨て手袋やマスクの使用							
第6回	〃	介護福祉職の感染予防 / 療養環境の清潔、消毒法 / 消毒と滅菌							
第7回	健康状態の把握	身体・精神の健康 / 健康状態を知る項目(バイタルサインなど)①							
第8回	〃	健康状態を知る項目(バイタルサインなど)② / 急変状態について							
第9回	まとめ								
【学生に対する評価】									
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 小テスト ・レポート課題の提出 状況とその内容 ・受講、演習に対しての意欲や取り組みなどを総合的に評価する 									
【テキスト及び参考書】									
<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 第15巻「医療的ケア」(中央法規) ・受験ワークブック 下(中央法規) ・必要に応じて資料配布 									
担当教員 実務経験 ・特別養護老人ホームで介護福祉士として勤務 ・病院で看護師として勤務									
担当教員E-mail		tsutsumi@tohaya.ac.jp			学校専用E-mail				